原子核三者若手夏の学校

提案説明者: 東 武大 (京大理・素粒子論・D1)

- 日時: 2002年8月1日 ~ 7日
- 会場: パノラマランド木島平
- 参加者数: 300人 (昨年度298人)

夏の学校の目的と意義

素粒子・原子核・高エネルギーの分野の大学院生が集まる 巨大な研究会。

2002年度夏の学校で第48回目を迎える。

- 教育:
  素粒子論・原子核理論・高エネルギー実験
  各パートごとの講義、研究会など。

  ⇓

  幅広い知識と柔軟な発想の育成、
  各分野における研究の活性化。

- 交流:
  研究分野内外の人々との交流。

  ⇓

  将来の共同研究の土台の形成。

講義 (講師名の敬称略):

- 素粒子論パート:

  「超弦理論と量子重力」　磯 暁　(KEK)
  「高次元ゲージ理論とゲージ階層性」　稲見 武夫　(中央大学)
  「超対称性と階層性」　中野 博章　(新潟大学)

- 原子核パート:

  「クォーク・ハドロン物理における
  カイラル対称性」　保坂 淳　(RCNP)
  「原子核の平均場と殻模型 – 現状と展望」　中田 仁　(千葉大学)
  「中性子過剰エキゾチック核の構造」　中村 隆司　(東京工業大学)

- 高エネルギーパート:

  「謎の粒子ニュートリノと物理」　原 俊雄　(神戸大)
  「LEP から LHC そして JLC へエネルギー
  フロンティア – 実験の夢と現実」　山下 了　(ICEPP)

- 夏の学校特別講演:

  「標準模型以前の素粒子物理」　小林 誠　(KEK)

2001年度夏の学校の決算報告

- 収入:

前年度繰越金	2,782,408円
基研援助(講師旅費)	484,640円
基研援助(ポスター印刷費)	46,200円
素粒子論グループ援助	450,000円
学生からの参加費	873,000円
合計	4,636,248円

- 支出:

ポスター印刷費	46,200円
旅費補助(講師)	484,640円
旅費補助(学生)	1,000,620円
夏の学校運営費	378,883円
次年度繰越金	2,725,905円
合計	4,636,248円

2002年度夏の学校の予算案見込

- 収入:

前年度繰越金	2,700,000
基研(ポスター印刷費)	100,000
素粒子論グループ	0
参加費	900,000
合計	3,700,000

- 支出:

講師旅費	700,000
学生旅費補助	1,000,000
夏の学校運営費	300,000
次年度繰越金	1,700,000
合計	3,700,000

- 2001年度に基研より頂いた援助額は、
  講師旅費50万円及びポスター印刷費10万円。
- 2002年度会計で、繰越金100万円を償却する予定。
- 繰越金の適正金額に関する、三者若手の総意の共通見解は、
  100~150万円の範囲内。

基研に要望する援助

現在、原子核三者若手は2,725,905円の繰越金が存在。

⇓

2002年度は、ポスター印刷費10万円のみの減額申請。

- 繰越金が適正規模に戻った際には、従来どおりの援助の再開をお願い致します。

  (2001 年度は、講師旅費 50 万円、ポスター印刷費 10 万円)

- これはあくまで原子核三者若手のみの事情であって、物性・天文若手には何の関係もありません。